

気候変動にいかに対処すべきか。



熱中症を防ぐには

- (1) 暑さを避ける
- (2) こまめに水分補給
- (3) 急に暑くなる日には要注意
- (4) 暑さに備えた体作り
- (5) その日の体調にも注意
- (6) 集団生活ではお互いの配慮



災害から身を守るには

- (1) 気象情報や空の変化に注意
- (2) 飛ばされそうな物は固定
- (3) 停電や断水に備えて準備
- (4) 避難場所・避難ルートの確認
- (5) 非常持ち出し品の用意
- (6) 高齢者や子どもへの配慮



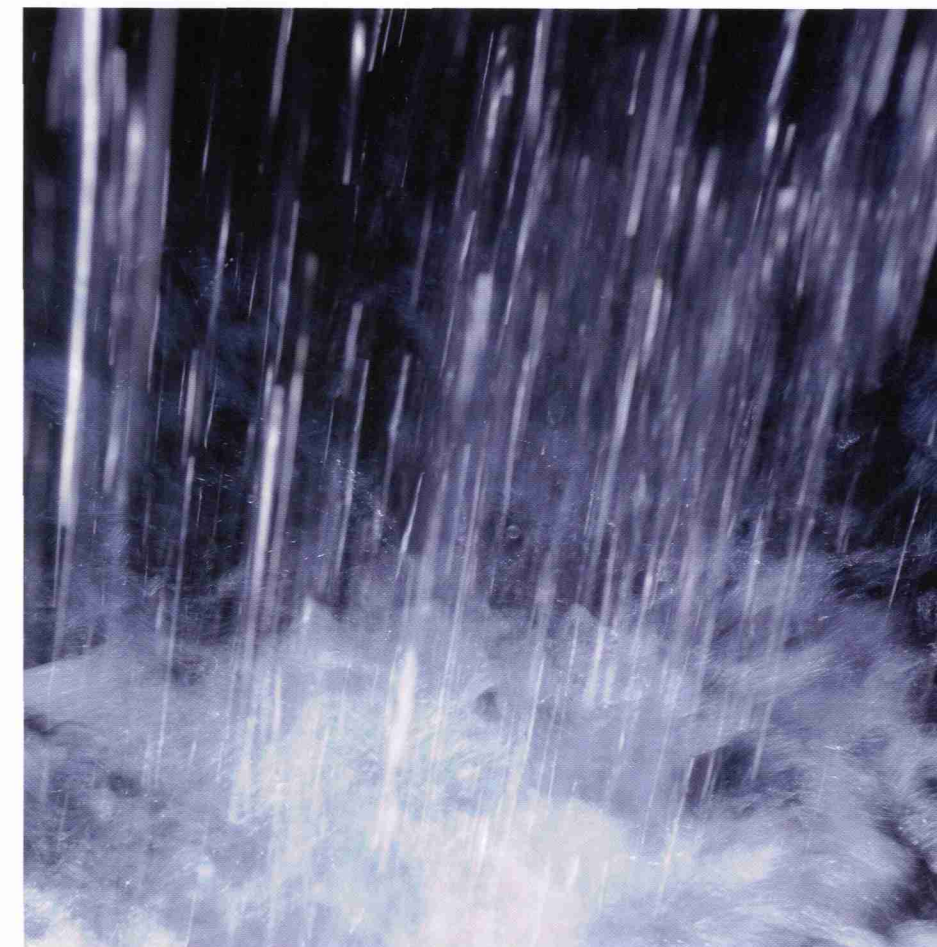
出典・資料

- 1) 気象庁(2014)気候変動監視レポート2013
- 2) 消防庁(2013)平成25年夏季(6月～9月)の熱中症による救急搬送状況をもとに作図
- 3) 国土交通省(2014)水害統計調査をもとに作図
- 4) 気象庁(2013)地球温暖化予測情報第8巻
- 5) 茨城大学・国立環境研究所(2014)温暖化影響評価・適応政策に関する総合的研究2014報告書
地球温暖化「日本への影響」－新たなシナリオに基づく総合的影響予測と適応策－
- 6) 環境省(2014)熱中症環境保健マニュアル2014

※本リーフレットは公益財団法人旭硝子財団(環境研究 近藤次郎 Grant)の助成により、神奈川大学にて制作したものです。

変わる気候 増える災害

～これからの気候にいかに対処すべきか?～

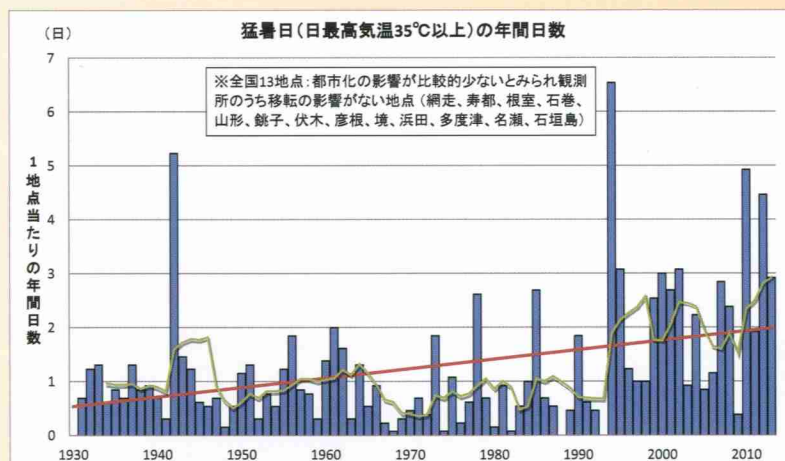


極端な気象現象の増加とその影響。

猛暑日(最高気温35℃以上)の増加

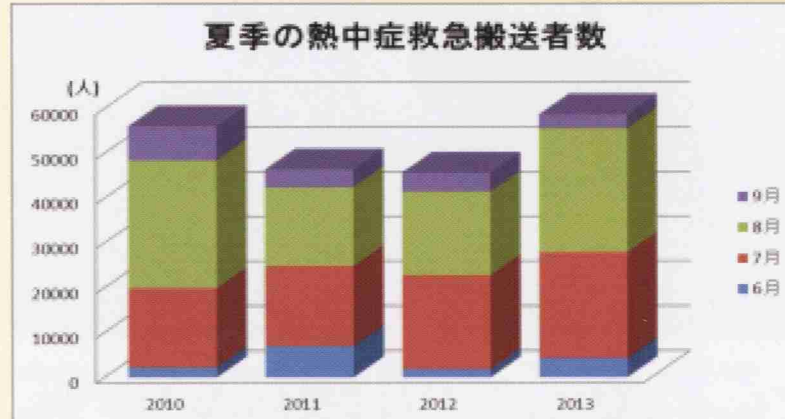
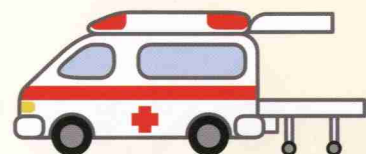
都市化していない地域でも最高気温が35℃を超える猛暑日が増える傾向にあります。1900年代半ばごろの猛暑日は全国13地点で平均年間1日程度でしたが、近年は年間平均2日程度と倍増しています。

※折れ線は5年平均、直線は長期的傾向を示す。



熱中症患者数は毎年5万人に。

近年、熱中症により救急搬送される人の数は毎年5万人前後にのぼります。熱中症は、暑い日の運動や労働のときだけでなく、近年は日常生活においても発生しています。

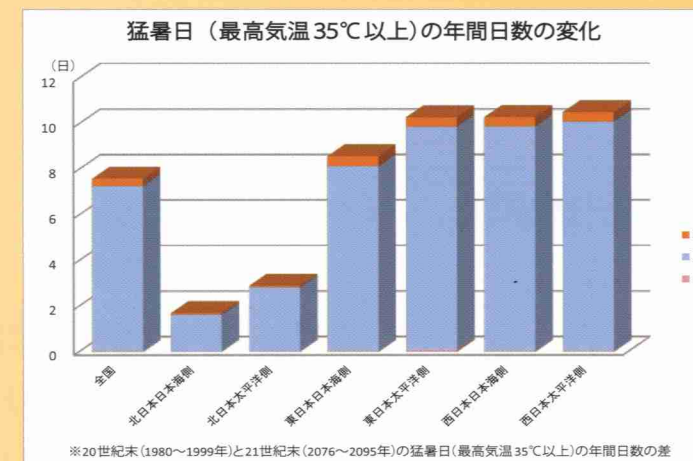


地球温暖化の進展

そして更なる気候の変動と被害の拡大。

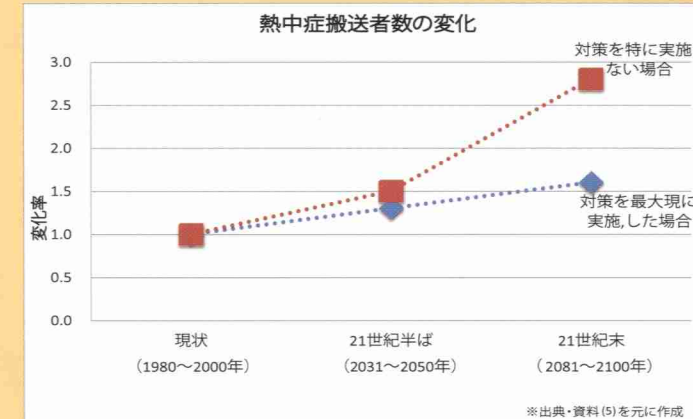
猛暑日は1週間以上も増える!?

最高気温が35℃以上となる猛暑日は、今世紀末までに1週間以上増えると予測されています。特に、西日本や東日本の太平洋側では、10日以上も増えると予測されています。



熱中症による患者数は3倍近くに

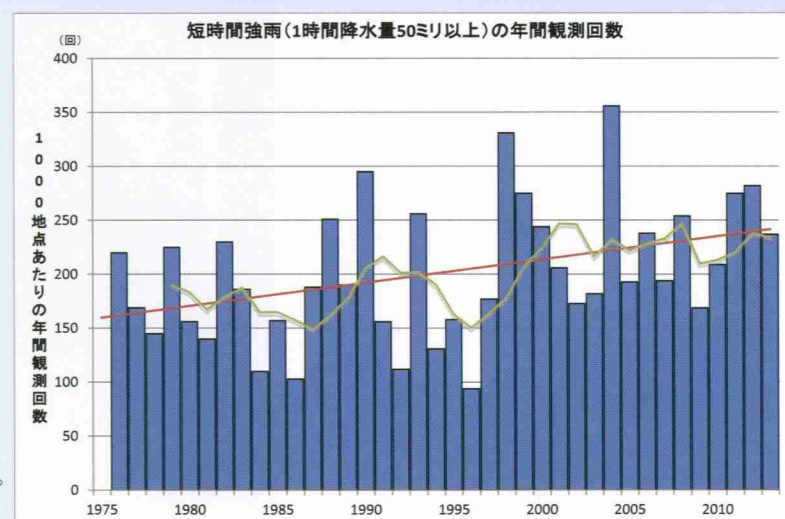
温暖化対策を特に行わない場合には、熱中症による搬送者数は、50年後にはこれまでの1.5倍近くに、さらに100年後には3倍近くにまで増えると予測されています。



非常に激しい雨の増加

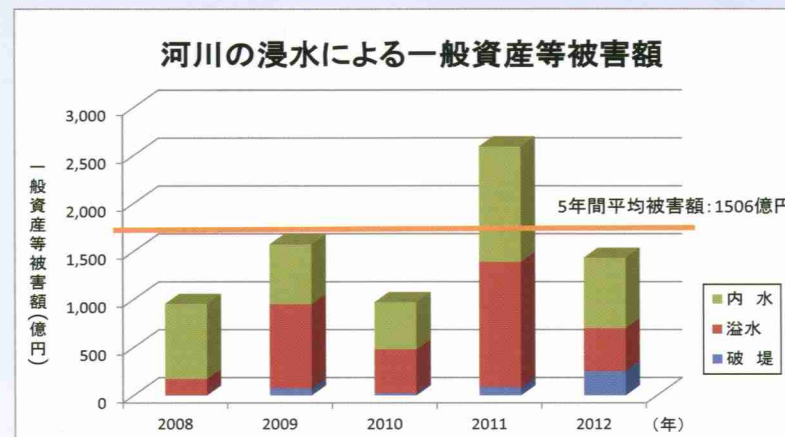
短時間に降る非常に激しい雨(1時間降水量50mm以上)が増える傾向にあります。1990年ごろの年間観測日数は全国1000地点あたり200日以下でしたが、近年は250回近くにまで増加しています。

※折れ線は5年平均、直線は長期的傾向を示す。



浸水による被害額は年間約1000億円

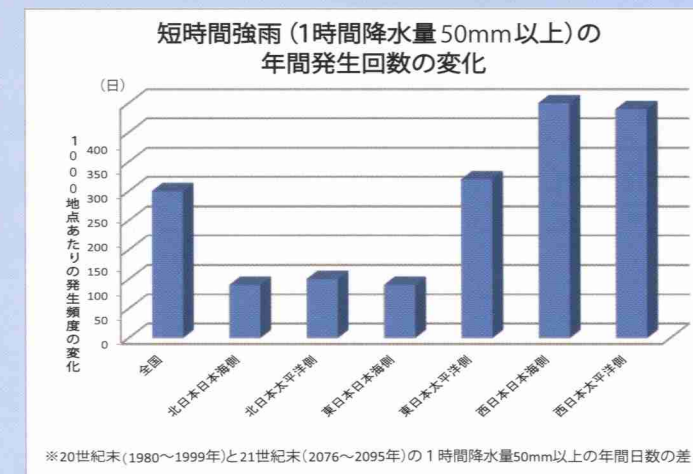
堤防の決壊や堤防を越えて水があふれる溢水などの洪水や住宅地などで排水が困難になることなどで生じる浸水による被害額は、年間1000億円以上にもなります。



地球温暖化の進展

非常に激しい雨は倍増する?

1時間50mm以上の非常に激しい雨は、今世紀末までに全国1000地点あたりの年間発生回数は250回ほど増えて、これまでの2倍程度になると予測されています。



浸水による被害は年間5000億円以上に

温暖化対策を特に行わない場合には、洪水による被害額は、50年後にはこれまでよりも年間3000億円近く、100年後には、年間4000億円以上増えると予測されています。

